

平和へのメッセージ②

※恩納村慰霊祭で読み上げたメッセージを紹介

※①は広報おんな8月号に掲載

恩納小学校代表(永井 杏奈)

「生きていてくれてありがとう。」私は、戦争で生き残ってくれた人々のおかげで、今この場にいます。

1945年3月26日。慶良間諸島にアメリカ軍が上陸したことで沖縄戦は始まりました。空襲警報が鳴るたびにガマに逃げ込む人々。兵隊に招集され、家族と離されてしまった人々。戦争によって多くの人が生活を困難にしました。戦争体験者の方からは「地獄のようだった……」と当時の様子を教えてもらいました。戦争は、人の心に永遠と傷を残してしまうのです。

あれから81年。沖縄ではたくさんの人が笑い、自然の豊かさをもどってきました。恩納小学校の6年生は、総合的な学習時間に「平和」について学習しています。人によってそれぞれテーマは違いますが、私は「沖縄戦のその後」について調べています。

また、5・6年生合同の平和ワークショップでは、校長先生や恩納村博物館の瀬戸さんが「フォトランゲージ」を通して沖縄戦について教えてくださいました。

私は、これらの学習を通して「平和」への再確認をしようと思います。沖縄で育ったからこそ学べた「平和への誓い」を、これから私が会える全ての人々に伝えていきます。



仲泊小学校代表(布施 理衣奈)

沖縄は、青い海と青い空、きれいな自然が心を豊かにしてくれるところです。

私は、そんな沖縄を誇らしく思っています。沖縄では、子供から高齢者の方まで、みんな思いやりがあり、笑顔になる挨拶が溢れています。「おはよう」「今日も元気?」「頑張ろう!」と一人ひとりが優しく声を掛け合って毎日を穏やかに過ごしています。

私は、お家でも家族と仲良く過ごしています。私は、こんな平和な生活が当たり前だと思っていました。しかし、81年前の沖縄には、決して忘れてはいけない「沖縄戦」という恐ろしい出来事がありました。それまで、みんなが幸せに過ごしていたのに、「戦争」が美しい沖縄の地も、思いやりのある沖縄の人々の心にも傷を残してしまいました。

私は、毎年、沖縄戦について学習し平和について考えます。戦時中、敵から逃げるために歩き続けた人がいたこと、赤ちゃん、子供たちの尊い命が奪われていったこと、とても胸が苦しくなりました。二度と戦争が起きてはいけない、二度とこの大好きな沖縄を戦いの地にしてはいけない、と強く心に誓いました。

戦争の恐ろしさを体験していない私たちにできること。それは、この悲しい過去を次の世代へ伝えていくこと。命は尊い、ということ。

そして、一番大切なことは、一人ひとりが周りの人にやさしく思いやりをもつこと。これが平和への第一歩だと思います。これからも、この大好きな沖縄の平和を、今を生きる私たちがいつまでも守り続けていきます。



山田小学校代表(島袋 昊太郎)

戦後81年目となる慰霊の日を迎えました。沖縄戦で亡くなられた方々のことを思い、平和について自分なりに考えてみました。

私たちが暮らす恩納村には、美しい海や豊かな自然があります。青い海で遊んだり、友達と笑い合ったり、家族と安心して過ごしたりできる毎日は、とても幸せなことだと思います。このように穏やかに過ごせることが私の考える平和です。

しかし、81年前、沖縄では地上戦が行われていました。4か月もの間、戦争が続き、罪のない人々の命が失われ、平和な暮らしがこわされました。戦争が終わった後も、栄養失調や病気などで県民の四人に一人が亡くなるなど、いいことは一つも無かったことを知りました。犠牲者の中には多くの幼い子供もいたそうです。そして、今も世界では戦争が続いています。ニュースで家を失った人や、泣いている子どもたちを見るたびに、胸が痛みます。私が平和に生活している同じ時間に、戦地では、安心して眠ることや、学校へ通うことができない人たちがいることを、忘れてはいけないと思います。だからこそ、私たちは慰霊の日に、平和について考え続けることが大切だと思います。相手を思いやる気持ち、命を大切に、争いではなく話し合いができる世界を願っています。

私は、恩納村で学ぶ一人として、これからも平和の大切さを伝えていきたいです。二度と沖縄戦のような悲しい戦争が起こらないことを願い、これからの平和な世の中を守りつづけていこうと思います。これで私の平和へのメッセージとします。

